

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作成し、毎日意識して取り組めるよう、法人の理念と共に毎日の申し送り時に職員で唱和をしている。	法人の理念に連動しホームの理念として「家族・地域とのつながりを推進する」等、三つの理念が掲げられている。毎日15時からの申し送り時に法人及びホームの理念を唱和し、毎日の業務の中に理念が活かされるよう取り組んでいる。外部からの来訪者にも見えるようにホームの入り口の壁に額入りで掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が近隣住民と関わりを持てるよう、散歩等の際、挨拶をしたり、地域の行事に参加したりしている。施設の行事に地域の方に参加していただけるよう回覧板を通して広報している。	行政区に入区しており会費も支払っている。諏訪湖アダプトプログラムへの参加を継続している。地域の行事に参加したり、ホームの行事を回覧で区民にお知らせしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岡谷市より認知症介護教室の委託を受け、地域住民対象の介護予防教室を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回開催できるよう実施している。参加者、利用者様などの意見を参考にサービス向上のための取り組みを行っている。	定期的に開催している。参加メンバーは利用者及び家族、区長、介護相談員、市職員などで構成されている。ホームの活動状況や生活の様子、職員の異動等を報告し、区の方からの要望をいただき意見交換している。貴重な意見は職員に報告しサービスの向上に活かしている。開催予定日は1ヶ月前くらいにその都度決め連絡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで、市役所の介護福祉課の方に入退居者の有無や利用者様の状態、ケアの取り組みなどを伝えている。	市主導の介護予防事業の中で認知症予防や転倒予防の講師を務めている。介護認定更新時には家族が参加できない方もあり職員が対応している。市から派遣の介護相談員の方2名が月1回来訪されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は、未だ実施していない。1月会議にて実施予定。	毎日申し送り時に状態を報告し合い、対応や言葉使いが拘束に当たらないかどうかを話し合っている。法人内で「身体拘束をしないケア」について研修を実施している。ホーム単独でも1月に研修を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はグレイスフル岡谷全体で9月に実施。勤務の都合により参加できなかった職員へも情報共有を行った。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、未だ実施していない。1月会議にて実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約・解約等の内容を説明し、ご家族の意向を伺い、ご理解いただけるように努めている。文書にて提示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のつづやきとして、小さな一言も汲み取り、申し送り時に対応策等を検討し、実施している。	利用者のほとんどの方が自分の思いや意見を表出できる。言葉で上手く伝わらなくても表情やしぐさで伝えることができる。利用者のつづやきを記録しておき、申し送り時に検討している。年2回満足度調査を実施し、結果を分析後、運営に活用している。誕生日会には家族が同席し、意見を伺える場となっている。今年度から個別情報を入れた「○○様ホーム便り」を家族に配布するようになり、普段の生活をより分かりやすく伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時等に職員からの意見や提案を募る機会を設け、検討している。又、チャレンジシートや面接時に意見を言う場を設けている。	定例の職場会議は3ヶ月に1回を原則としている。夜間の会議をできるだけ避けるため、毎日の申し送り時間を活用し、意見や提案を募る場としている。管理者は職員との日頃の会話や気づいた時に業務上の悩みなどについて話し合うように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標を持って、働けるように各ツールを使用したり、個々に面接を行い、各職員の目標を共有しあい、意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせた学びの機会を持つよう法人内外の研修の情報収集をし、研修参加の促進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年定期的に同法人内の事業所間の交換研修を行っている。又、法人全体の職員を対象とした研修の実施により、交流の場を設けている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前(入居)にご本人、ご家族との面接を重ね、現状の不安なこと、利用してからの希望すること等をよくお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。ご家族からの相談に至った経緯、今後の希望等をしっかりとお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のサービス利用状況を確認しながら、他のサービス機関の情報も必要に応じて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事や掃除を行い、食卓にて同じ料理を味わうなどして会話の機会を多く持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から情報共有に努め、ご家族来所時には利用者様と過ごせる場所の確保と雰囲気作りに配慮している。ご家族との関係が継続できるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣店舗への買い物や馴染みの場所・生まれ故郷などへの外出、ドライブ等を計画し実施している。	以前の職場の同僚や近所の人からの訪問を受ける方や馴染みの美容院へ家族と行かれる利用者がある。個別外出時に馴染みの店で買い物をする方もいる。知人や親戚との年賀状や手紙のやりとりを職員がお手伝いすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いに声を掛け合い、助け合える環境を整えている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居後も必要に応じて相談援助や面会を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望をゆっくりと傾聴し、実行出来るように努めている。ご自分の意思を伝えるのが難しい方には、その方の様子や表情を伺い、把握出来る様に努めている。	ほとんどの方は言葉で伝えることができる。言葉で伝えるのが難しい方は仕草や表情から把握している。ほとんどのの方が自分の意志を明確に持っているので尊重し対応している。利用して間もない方が欲しい物を我慢している様子が見られたため、家族の面会を増やし対応していただいたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートを活用しながら、個々の生活歴等の情報を共有し日々のケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスなどを通して、個々の出来ること・お好きなことに視点を置き、発見していくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見や意向を取り入れ、介護計画を作成している。利用者様の状態変化に応じて計画書の見直しを行ったり、緊急の案件の際は、ご本人・ご家族の意向に沿って、申し送りの時間にて検討している。	職員は1~2名の利用者を担当している。「つぶやき」の記録には責任を持ち、利用者の意向として介護計画に反映している。モニタリングシートに出来たことを記録しておき、申し送り時にモニタリングをしている。変化の無い場合は6ヶ月、利用したばかりの時は3ヶ月で介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力での介護記録(ポイントケア)にて、情報共有を図っている。毎日、ポイントケアにて介護計画書の実施の有無について評価をしている。特記事項は業務日誌へ反映し、全職員が把握できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サン・サンサロンや併設のデイサービス利用者様との交流を図ったり行事に参加している。また、設備を活用している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の一員として、諏訪湖の清掃活動や地区の行事に参加して地域住民との交流を図り、充実した生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な際は、ご家族に連絡し希望の病院をお聞きして対応している。また、地域の医療機関より往診を含めた協力を得ている。	利用前のかかりつけ医を継続している方もいる。定期受診は原則、家族が付き添っている。契約医の往診が可能で緊急時や夜間も協力を得ることができている。訪問看護ステーションの看護師が火曜日に来訪しており、バイタルサインのチェックや医療面の相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度、11月より訪問看護が入っており、随時連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院関係者との連絡をまめに取り合い、ご本人の状態把握と今後の方針・予定等を聞き、必要に応じて動けるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態やADLに変化が見られた際には、ご家族と今後の方針を話し合い、当事業所で出来る範囲のことを説明している。また、主治医やケアマネ等にも相談を持ちかけ、多方面から支援できるように取り組んでいる。	法人としてホームでは看取りを実施しない方針である。ADLや医療面の変化に応じて、家族と今後の方針を話し合い、希望に沿うように努めている。同じ法人には住み替えのできる施設があり、ホームでの生活が困難になると他の施設に入れるという安心感がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による定期的な救急救命法を受講している。また、定期的に会議や申し送り時に緊急時対応マニュアルの確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を計画し、利用者様・職員で実行している。また、災害時の近隣住民による協力体制も整えている。	年4回防災訓練を計画しており、マニュアルの点検をしている。連絡網を回したり、非常階段からの避難訓練なども実施している。近所の家1軒が連絡網に入っており、有事の際の協力をお願いしている。災害時の備蓄品が廊下の戸棚に準備されている。	夜間を想定した避難訓練を年間計画に組み入れ、実際に即した場面で実施されることを期待する。

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同法人内の事業所間で、情報を共有しながら言葉掛けや対応を検討、実施している。本人よる居室の施錠等も、状況に応じ実施している。	「利用者様を第一に」の理念のもと、利用者を尊重しつつ毎日接している。個人情報保護の研修が法人全体で年1回実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の希望や思いを聞いた際は、つぶやきとして記入し、職員間で情報共有し、個別外出や行事の中に取り入れ、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや好みを大切に、ご希望をお聞きしながら、買い物や散歩等に付き添ったり、個別にお好きな時間にお好きなことが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の嗜好に合わせた身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、4品の副食を用意し食卓の彩りを楽しんでもらうと共に、個々の力に応じて食事準備や片付け等に職員と一緒に家庭的な雰囲気の中で参加していただいている。	ほとんどの方が自力摂取できる。刻み食の方は1人で他の方は普通食である。全利用者が自分の能力に合わせ、また、得意な分野を活かし食事作りに参加している。自分の器を戸棚にしまうまで、自分で洗い、拭くなど、手際よく行っていた。献立は当番制で職員が1週間分を立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや摂取量を確認し、翌週の献立を作成している。個々の状態に合わせて、食べ易いようにおかずの大きさに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者様に応じた口腔ケアを実施している。夜間は義歯を預かり、定期的に義歯洗浄剤を使用して義歯の清潔保持に努めている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にアセスメントを行い、個々に合ったオムツの見直しや、トイレ誘導の時間を検討し、排泄の自立支援を行っている。	声かけが必要な方は2人で他の方は自立している。全員布パンツを使用し、パットを当てている方も若干いるがトイレで排泄するのを原則とし、パットはその都度交換している。夜間声かけ・誘導が必要な方が2人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立作成時、便通に良いとされている食物繊維の多い食材の使用に努めている。体操や散歩等、身体を動かす機会を多く持てるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午前・午後とお好きな時間に入浴を楽しんでいただけるように取り組んでいる。	入浴は毎日可能で利用者の希望の時間に入ってもらえる。入浴を好まない方にも入ってもらえるように声かけなどを工夫している。見守りのみでほとんどの方は入浴できている。足拭きマットは個人個人で交換し、感染予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で休んでいただけるよう環境を整えている。又、状況に応じて休息していただくよう声かけや誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後や定期薬を受け取った際、全職員が把握できるよう処方箋をファイルに挿み、確認している。服薬マニュアルを作成、確認し、適切な服薬介助に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシートやつぶやきを活用し、職員間で利用者様個々の生活歴・趣味の情報を共有し、自らが好きなことが行えるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	偏りが無いようチェック表を元に散歩や食材の買い物、定期的なドライブ等の外出が出来るよう取り組んでいる。その日の希望に添っても、業務を工夫し臨機応変に対応出来るように努めている。	6人の方は自力歩行ができ、他の方は杖や手引きで外出している。自力歩行できる期間を保てるようにと毎日リハビリ体操を行なっている。毎日歩道のごみ拾いをしながら散歩している。個別外出計画と全員参加の季節毎の日帰り旅行の計画があり、花見やブドウ狩り等を実施している。計画外でもその日の希望に沿って対応するように工夫している。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得て、個々の能力に応じ財布を所持していただき、買い物時などに希望品を購入出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や日常のやりとりでも、希望に応じ手紙等出せるよう支援している。電話についても、希望があればご家族様の了承を得た上でいつでもかけていただけるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はカレンダーや写真を飾ったり、季節の生花を置き、季節感を出している。	床暖とエアコンで室温を保っており温室度チェック表で確認している。居間兼食堂の南側に広い屋上庭園があり明るく日当たりが良い。共用空間の壁に散歩に出かけた時の写真が貼ってある。介護相談員の方が撮影した風景写真が季節に合わせて飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置したり、居間にて気軽に休めるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、極力ご本人の使い慣れた衣類や家具などを持参していただけるようご家族に相談している。利用者様の作品や写真なども貼り、居心地よく過ごしていただけるような工夫をしている。	収納戸棚が入り口上部に備え付けられている。職員手作りの誕生日カードや感謝状、敬老の日のメッセージカードなどが壁一面に貼られている。家族写真を飾っている方、衣装ラックを複数備えている方等、個別性を感じることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者様の出来ることに着目したアセスメントを行い、計画書を作成し実施している。トイレの場所など分かり易いよう掲示物等で工夫している。		